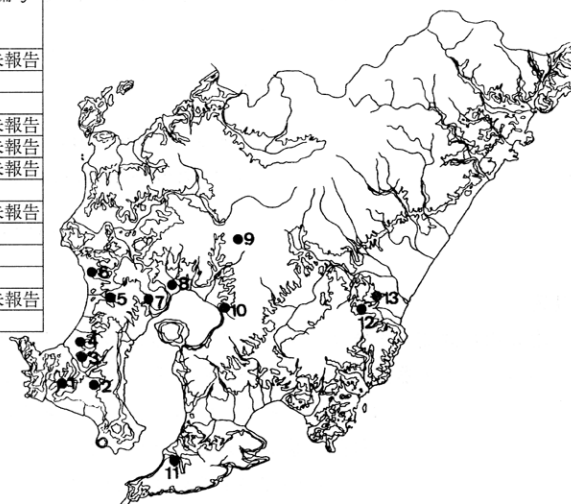


番号	遺跡名	所在地	前 平	志 風	加 栗	小 牧 3 A	吉 田	岩 之 上	倉 園 B	石 坂	備考
1	鷹爪野遺跡	川辺郡川辺町									未報告
2	永野遺跡	川辺郡知覧町永里	○								
3	宇治野原遺跡	日置郡金峰町			○						
4	諏訪牟田遺跡	日置郡金峰町									未報告
5	前原遺跡	日置郡松元町									未報告
6	市ノ原遺跡	日置郡東市来町湯田									未報告
7	加栗山遺跡	鹿児島市川上町			○	○	○				
8	建昌城跡	始良郡始良町									未報告
9	山崎B遺跡	始良郡栗野町山崎				○					
10	上野原遺跡2・3地点	国分市川内			○						
11	大中原遺跡	肝属郡根占町					○	○			
12	札ノ元遺跡	宮崎郡田野町			○						未報告
13	椎屋形第2遺跡	宮崎市細江			○						

第1表 レモン形出土遺跡一覧



第1図 レモン形出土遺跡位地図

ことは、北への分布圏拡大が加栗山式土器をピークとしている状況と大差がないと考えられる。以前に述べたことではあるが、この状況は小地域での突発的な現象ではないことを示し、型式学上連続性が窺えるのである。これらの事象から、南九州貝殻文系土器の前平式土器から岩之上段階にかけては、円筒形・角筒形・レモン形という3つの器形が存在していたと考えられるのである。

3 各段階ごとのレモン形

現段階での三者の変遷を見ていきたい。南九州貝殻文系土器は、円筒形のみを有する岩本式土器が最古の土器型式として位置付けられている。器形のバリエーションが展開するのは、岩本式土器の次に位置付けられている前平式土器になってからである。

前平式土器の理解の範疇によっては違ってくるのであるが、前平式土器には円筒形のみが段階が初めに存在しているものと思われる。次に、田代町荒田原遺跡のような角筒形をセットとして有する段階があり、円筒形・角筒形・レモン形の組合せが見られるようになるものと思われる。つまり、遺跡の調査範囲によって得られるデータに差が生じるが、3つの器形の有無を検討することで前平式土器には少なくとも2つの段階が設定される可能性が高いのである。

この次の段階としては、加世田市志風頭遺跡や始良町建昌城跡出土資料が位置付けられるのであるが、検討資料が極めて少数であるために全体像が掴みきれていない。ただし、前後の段階には円筒形・角筒形・レモン形の三者が揃っているため、この段階でもそれに近い状況であることが想定できる。

ところで、これまでの前平式土器における円筒形・角筒形のセット関係に関しては高橋信武によって疑問視する考えが示されている(高橋 1998)。また、調整技法を基に南九州貝殻文系土器を検討した上杉彰紀は、前平式土器を調整から古段階と新段階とに分けこれに続く土器型式を志風頭式土器と仮称している。この論考の中で上杉は、従来前平式土器の角筒形として位置付けられていた一部の資料に

ついて、「内面ケズリ調整」と「文様構成」から志風頭式土器の範疇であることを述べている。加えて、角筒形の初現を「山崎B遺跡や榎崎A遺跡などの従来前平式土器とされてきた角筒土器が志風頭式土器として独立するとすれば、前平式土器の角筒土器の実態は桑ノ丸遺跡出土資料に求められることになろう」と推察している(上杉 2000)。

これらの土器群の次には、加栗山式土器が続く。貼付文の形状やその有無、口縁部内面の調整法、口縁部の文様構成や胴部の貝殻刺突文の間隔などで細分が可能であるが、小稿の目的上大枠の中で考えたい。この段階は角部形成がはっきりとしており、口縁部から底部に至るまで明瞭な角部を形成する。これは角筒形・レモン形に共通する部分である。この点に関しては、加栗山式土器に角部形成の過渡期的様相を示すものが見られないことから、前段階である志風頭段階において角部形成が口縁部から底部に至るまでなされるようになったものと考えられる。文様構成や内面調整に関しても、円筒形の特徴がほぼそのまま対応する。

次に、胴部施文が密接な貝殻刺突文の段階が続く(黒川・桑波田 2000)。前迫亮一によって小牧ⅢAタイプと呼ばれている土器群である(前迫 2000)。出土量の豊富な指宿市小牧ⅢA遺跡においては三者全ては揃ってはならず、三者が揃っている遺跡名を挙げれば加栗山遺跡等が挙げられる。

次に吉田式土器が続く。加栗山遺跡や根占町大中原遺跡で良好な資料が見られる。この段階では角筒形・レモン形の角部形成は先の加栗山式土器や小牧ⅢAタイプと比べると曖昧なものへと変化しているものが見られる。例えば、加栗山遺跡の角筒形やレモン形は外面こそ角部を形成してはいるが、内面に関してはやや丸味を帯びているという特徴が見られる。

ここで貼付文に注目してみたい。貼付文には、粘土紐状